

《2023 年度版》

下痢・嘔吐

暖かい日が増えてきましたね、しかしまだまだ感染性胃腸炎が流行する時期です。主な症状である下痢・嘔吐は、ウイルスや細菌などの感染源を体の外へ外へ追い出す、体にとって大事な防衛反応なんです。今回はおうちで見るポイントなど「高知県 救急対応ガイドブック」をもとに紹介します。

下痢の場合

水のようなか泥のようなか血液が付いているかネバネバした粘液が付いているか確認

発熱・発疹のある・なしや、うんちとおしっこの回数、状態はメモしておく

どのような下痢か観察しましょう。うんちの状態はお腹の中の状態を診察する判断材料になります。スマートフォン等で撮影した画像や、おむつを持参しても良いです。(注:ビニール袋で厳重に封をしてね)

または写真を見せる

下痢便をしたオムツはビニール袋に入れて診察を受ける時に持参

下痢に含まれる成分が肌を刺激して、おむつかぶれになることもあります。こまめなオムツ交換や、できるだけおしりを洗ってあげましょう。ただれている場合は医療機関へ。

嘔吐の場合

体を横向きにして吐いたものを吸い込まないようにする

咳とともに吐く、食べ過ぎて吐く、もともと吐きやすい子や、赤ちゃんが母乳やミルクを吐き戻す場合などはあまり心配ありません。

吐き気が続く時には、吐いたものが気管に入らないように体を横向けにしましょう。

吐いたものの状態(色)を観察しましょう。お腹をさすり痛がる場所はないか、張っていないかを確認してみましょう。

吐いたものに血液とかが入っていないか確認

激しい泣き方を繰り返すようなら急いで病院へ

病院受診のめやす

～救急対応ガイドブックのご案内～



高知県が発行しているお子さんのための救急対応ブック!

発熱や腹痛、けいれん、湿疹などなど・・・「こんな時どうするの??」がわかりやすく詰まった1冊です。にこなん、健康対策課に置いてあるよ、手に取ってみてね～♪ 高知県公式HPからのダウンロードもできます♪

嘔吐の場合

- ・続けて何回も吐く
- ・意識がぼんやりしている
- ・けいれん(ひきつけ)がある
- ・便に血が混じる
- ・強い腹痛や頭痛がある
- ・吐いた後で“キーツ”という激しい泣き方を繰り返す

下痢の場合

- ・回数が多い
- ・機嫌が悪い
- ・腹痛が強い
- ・便に血が混じる
- ・ぐったりしている
- ・おしりがただれた

